文化的景観保全手法による 菊池市民広場のパークマネジメント

田中　尚人 [1]

[1] 正会員　熊本大学准教授　政策創造研究教育センター（〒865-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1）
E-mail:naotot@kumamoto-u.ac.jp

菊池市民広場は，中世からの歴史を有する熊本県の地方都市菊池市の中心市街地の一端，菊池神社や温泉街に隣接した場所にあるまちなか広場である．本研究では，菊池市民広場のパークマネジメントにおいて，参加と協働を基盤とした景観まちづくりである文化的景観保全の場づくりが果たす役割について，アクションリサーチとして考察する．本研究の目的は，菊池市民広場の文化的景観保全を通して，持続可能な景観まちづくりとしてパークマネジメントの要件を明らかにすることである．筆者らは，この菊池市民広場の再整備に関する菊池市ふるさと創生市民広場再整備市民委員会の活動部会であり，市民主体のサイエンスショップ型研究会として「菊池市民広場ファンクラブ」を運営し，ソーシャルイノベーションの社会的実装に取り組んでいる．本研究の成果は，持続可能なまちづくりの拠り所となる，地域アイデンティティに基づいたコミュニティの深化の一助になると考えている．

Key Words: *cultural landscape, world heritage, community development, regional education and Misumi-nishi port*

1.　はじめに

(1) 研究の背景・隈府の概要

菊池市民広場は，中世からの歴史を有する熊本県の地方都市菊池市の中心市街地の一端，菊池神社や温泉街に隣接した場所にあるまちなか広場である．

菊池市は，人口 50,018 人（平成 28 年 1 月末現在），2005 年 3 月に 4 市町村（菊池郡の菊池市，七城町，旭志村，泗水町）が新設合併した．菊池川の流れる平野部と阿蘇へと続く中山間部を有する自然に恵まれた地方都市である．

菊地市の中心市街地である隈府は図-1 に示すように，古くから熊本県内でも有数な町で，江戸時代には手永会所が置かれ，造酒や農産物，林産物の売買といった商業が栄えていた[1]．そうしたことから，地方の経済的中心地として，また阿蘇や大分県の日田との交易の場としても成り立っていた[2]．明治時代には千知波製糸などが創業し[3]，養蚕業に力を入れ始め，隈府に製糸伝習所が置かれた．1913（大正 2）年には菊池軌道株式会社により，隈府～池田（上熊本）間の鉄道が開通したが 1986（昭和 61）年に廃止された[4]．その後 1954 年に温泉の湧出があり[5]，現在も菊池温泉として営まれている．

隈府の北部に一級河川である菊池川の支流にあたる迫間川，南部に菊池川が流れ，東部に城山という小高い地形があり西部に菊池平野が広がっている．隈府は北部を流れる迫間川が作る隈府扇状地という扇状地上に形成された地域である．そのため水の便が悪く，かつては桑畑や畑地として利用されていた．築地井手が開削された後は水田開発が進んだ．築地井手の他に新堀井手も存在しているが，暗渠化されている部分も少なくない．また，城山には菊池公園や菊池神社が存在し，桜の名所となっている．

(2) 菊池市民広場の位置づけ

以下の二つの側面から，菊池市民広場の位置づけを整理した．

a) 周辺環境から見る位置づけ

広場の敷地は昔から城山および菊池神社の麓であり，現在も変わらない．また徐々に学校，行政機関，温泉施設に囲まれ始め，現在も人がよく集まる施設に囲まれている場所である．

b) 土地利用から見る位置づけ

市民広場の敷地は 1889 年の地図には記載がなく，建物も描かれていない 1960 年には中央グランド，1971 年

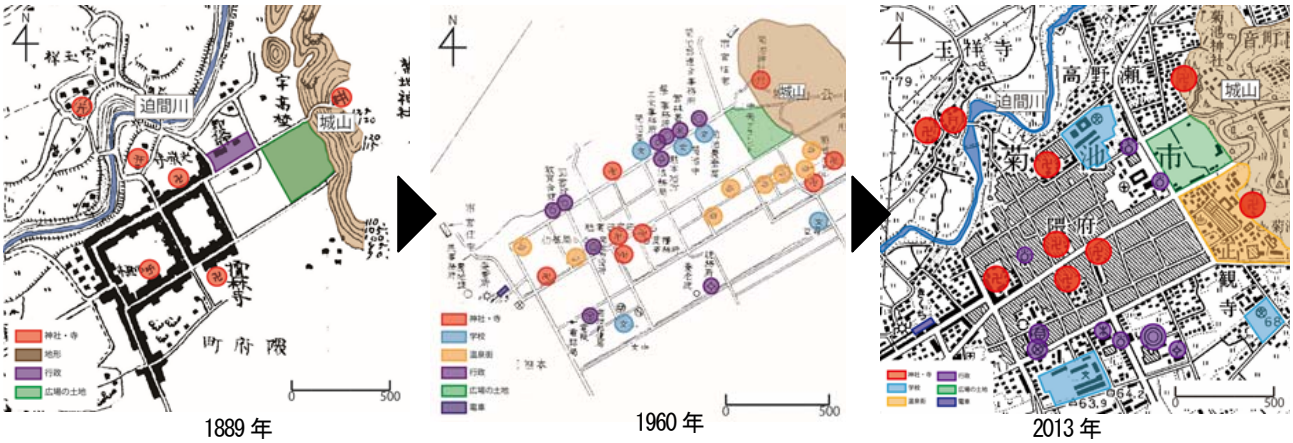

図-1　隈府の都市形成

には明記されておらず，広大な土地の中に建物が少し確認できた．1960 年までは広場の敷地と現在の行政機関がある土地までが一続きであったことが確認できた．この一続きの敷地は学校や行政機関といった，住民にとって重要な機関が立地していたことも確認できた．

(3) 菊池市民広場再整備の流れ

菊池市民広場は，1990 年ふるさと創生事業として創設された．当時は，入場ゲートのほか，体育センター，青少年ホーム，物産館，駐車場，弓道場，ゲートボール場，野球場，土俵といった運動施設，倉庫，トイレなども建設された．広場中央部には芝生広場，その中央には騎馬像が設置された．その後敷地内に美術館が建設され，一方城山の上方に運動施設などが整備され始め，いくつかの施設は移動した．その後，美術館や足湯広場などが設置され，**図-2** に示す図面が現在の菊池市民広場の平面図である．

(4) 研究の目的と手法

本研究では，菊池市民広場のパークマネジメントにおいて，参加と協働を基盤とした景観まちづくりである文化的景観保全の場づくりが果たす役割について，アクションリサーチとして考察する．

本研究の目的は，菊池市民広場の文化的景観保全を通して，持続可能な景観まちづくりとしてパークマネジメントの要件を明らかにすることである．筆者らは，この菊池市民広場の再整備に関する菊池市ふるさと創生市民広場再整備市民委員会の活動部会であり，市民主体のサイエンスショップ型研究会として「菊池市民広場ファンクラブ」を運営し，ソーシャルイノベーションの社会的実装に取り組んでいる．

文化的景観[6] とは，「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの（文化財保護法第二条第 1 項第五号）」と定義され，

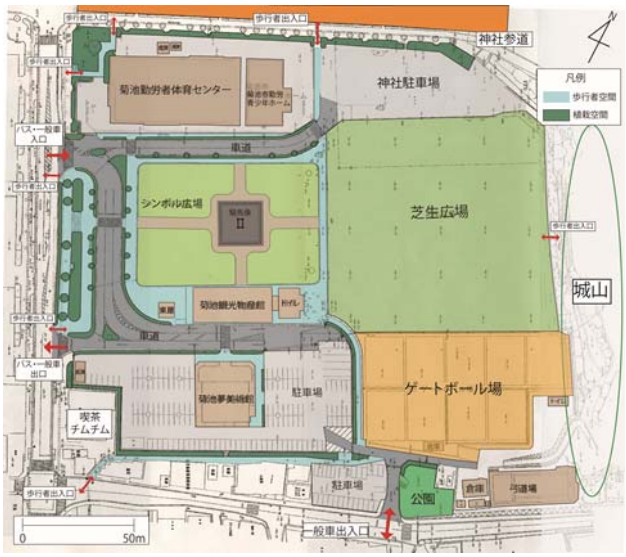

図-2　菊池市民広場現況平面図

その要件としては，①歴史，②自然環境，③生活・生業，が挙げられる．これらの要件の固有性を，総体と成立させている，地域アイデンティティの拠り所となる風景生成メカニズムを文化財とするものである．本研究の成果は，持続可能なまちづくりの拠り所となる，地域資産[7] としての文化的景観に根ざしたコミュニティの進化の一助になると考えている．

2.　菊池市民広場の活用主体

(1) 市民広場再整備委員会

平成 27 年 2 月 23 日に，菊池市では「菊地市ふるさと創生市民広場再整備市民検討委員会」が組織された．15 名の委員が就任，関連の農政，商工観光，土木，都市整備，社会体育，生涯学習などの各課長が出席し，筆者が会長を務めることになった．平成 30 年度完成を目指した第一期整備の基本計画を策定することを本委員会の目的とするが，菊池市民広場の将来像については，本会の母体となっている「菊池市民広場再整備協議会（平成

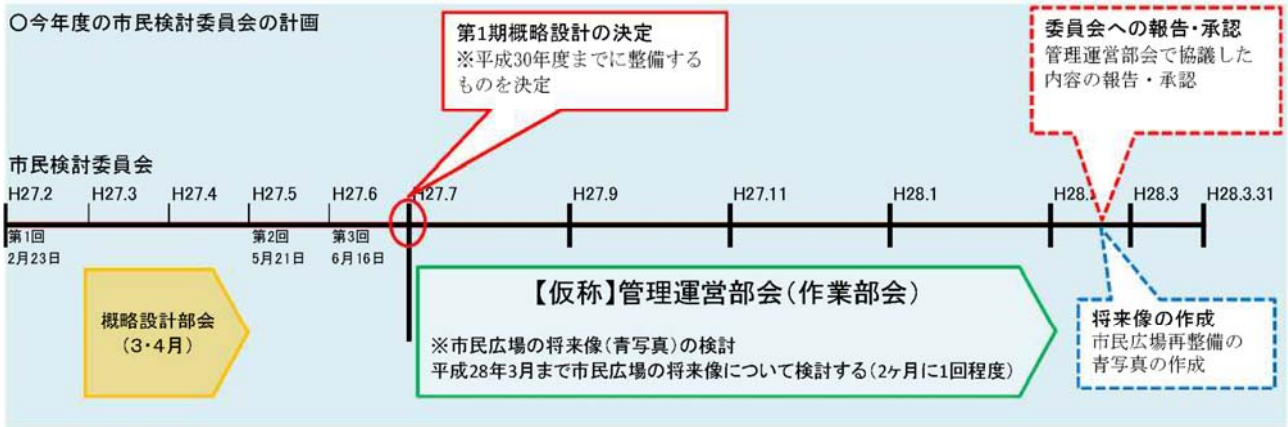

図-3　市民広場再整備のスケジュール

24～25 年度活動）」が考えてきた「～菊池の歴史と未来が薫る場所～菊池千年広場」とすることで合意した．

本委員会では，**図-3** に示す通り委員会の実行部隊として「概略設計部会」と「管理運営部会」の２部会の設置が認められた．また７月からは，熊本大学政策創造研究教育センターが COC 事業の一環として，サイエンスショップ型研究会として，この「管理運営部会」と協働して，パークマネジメントに当たることとした．

(2) 市民広場の利用計画策定方針

人口５万人程度の典型的な地方都市である菊池市でも，地方創生は重要な課題となっている．豊かな自然と豊富に湧き出る水，温泉，そして歴史ある中心市街地を活かして，菊池市では観光事業に取り組んでいる．隈府にある菊池市民広場は，その菊池の観光を担う拠点でもある．一方，周辺には温泉街だけでなく，公共機関や菊池高校，商店街などもあり地域住民の大切な公共空間でもある．

「市民」か「観光客」か，市民広場の主なステークホルダーについて議論した際，委員会でも意見は二分された．しかし，近年観光まちづくりの実践方法として重要な「着地型観光」[8] の考え方では，外からの観光客が，内側にいる地域住民たちの生活文化に価値を見出し，地元を尊重する「同心円状の集客」が重要であるとされ，公共空間における賑わい創出も，まずは地元が楽しむ，それを観光客も味わう，という展開が重要であるとされる．菊池市民広場の場合，「市民か，観光客か」という二項対立ではなく，「まず市民が集い，それを楽しみに観光客も集まる」という人々の共感を得ることができる「公共性の高い志」をパークマネジメントの主軸とした．

3.　サイエンスショップ型研究会

(1) 菊池市民広場管理運営部会の活動

平成 27 年 9 月 27 日（日）第１回管理運営部会を開催．

第一部でワーキングを行った後，第二部として菊地市ふるさと創生市民広場再整備市民検討委員会の委員からの有志と，オブザーバーの市民，関連部署の菊池市役所職員，熊本大学の学生が参加し，「市民広場でやってみたいこと，やったら楽しいと思うこと」をテーマとして，ワールドカフェ形式のワークショップを行った．以後，この管理運営部会に他の新しい参加者を加えて開催する講演会，ワークショップを「菊池市民広場ファンクラブ」と称することとした．

(2) 菊池市民広場ファンクラブ 第１回講演会

日時 平成 27 年 10 月 22 日（木）17:00～19:00
場所 菊池市勤労青少年ホーム（菊池市隈府 1272-2）
基調講演「アイがうまれる、まちなか広場」
講師　山下裕子氏（NPO 法人 GP ネットワーク理事）

1) 概要（写真-1，2 参照）

2007 年 9 月に富山市中心部に誕生した「富山市まちなか賑わい広場（愛称：グランドプラザ）」は，まちなかに広場空間を形成しているガラスの建築物である．富山市役所は，再開発した都心の百貨店と駐車場ビルの間に広場を設置し，ガラスの屋根をしつらえた．いま，この富山ＧＰは，「奇跡」とまで言われるほどに，都心の「賑わい」を創出した事例として着目されている．

日本一のコンパクトシティ富山市の賑わいを創出した，まさに，その現場におられた山下裕子氏の「広場」に対する情熱，愛情は日本一と言える．そんな山下氏の講演の後で，菊池市民広場の新しい使い方，楽しみ方を提案するワークショップを開催した．

2) 講演内容

・歩く人に優しいまちづくり，が基本的な考え方
・賑わいは，自らつくるものである
・イベントも，一人が 10 名お客を連れてきて，10 名でやれば 100 名の賑わいがつくれる
・一人で 100 万円儲けるのではなく，1 万円を 100 人で儲けるような仕組みづくり

・まちに行けば，なんかある，という感覚
・ダメと言わない，ルールは少なく．

3) ワークショップの成果

菊池高校生７名を含む，約 40 名の市民，市役所職員，熊本大の学学生（大学院生４名，学部生２名）が参加し，菊池市民広場の活用，パークマネジメントなどについて学び，考える機会となった．

写真-1　講演会の風景

写真-2　ＷＳの風景

(3) 菊池市民広場ファンクラブ 第２回講演会

日時 平成 27 年 12 月 3 日（木）17:00～19:00
場所 菊池市勤労青少年ホーム（菊池市隈府 1272-2）
基調講演「だれでもできる楽しい桜保全管理講座」
講師　今村能子氏（樹木医・城山公園桜守）

1) 概要（写真-3，4 参照）

菊池の桜は，菊池市民広場のシンボルである．第２回は，菊池市民広場が最も利用される時期，春の主役「桜」に焦点を当て，桜守である樹木医の今村能子氏の講演を聞いた後，第１回と同じくＷＳを開催した．

2) 講演内容

① サクラの保全と管理
② サクラを日本人の心
③ 最新サクラ保全講座
④ 市民広場と菊池公園を楽しく活用

・これまでとは違う角度から市民広場を見てみる
・桜の関心度は高いが，管理に対する意識は低い
・桜の文化性について
・各地の桜保全の方法について「秋の桜祭り」など

3) ワークショップの成果

菊池高校生 4 名を含む，約 30 名の市民，市役所職員，熊本大の学学生（大学院生３名，学部生２名）が参加した．今回は，市役所からの呼びかけに応え，周辺の区長様たちにも来て頂いた．また，ワークショップでは，市民広場でマルシェができないか，大勢で市民広場の利用について考えたい，などのアイデアも出された．

写真-3　講演会の風景

写真-4　ＷＳの風景

4.　地域らしさを繋ぐ場のデザイン

文化的景観の３指標「自然環境，歴史，生活・生業」は，地域アイデンティティの核となる本質的価値を，専門家のみならず，その価値に気づき，地域において継承していくステークホルダー，つまり地域住民や基礎自治体職員などとも共有するために有用な指標である．目に見えるものだけでなく，目には見えないもの，その土地に暮らしている人々しか知りえない慣習や知恵，生活文化なども，多様なステークホルダーの参加により共有し，パークマネジメントに活かしていくことが有用である．

また，地方創生の文脈においては，これまでの制度，仕組みではできなかった「挑戦」をイノベーティブに実践していくことも必要とされている．逆に言えば，今までは既存のシステムに囚われていたパークマネジメントの方法を大きく変えるチャンスでもある．

イノベーションは，無から有を生み出す訳ではない．これまで培ってきた歴史や文化が深い，つまりソーシャルキャピタルの高い菊池の中心部隈府であるからこそできる「革新」，これまで地域で閉じていたコミュニティを，少しづつ開いていくような場の運営を，菊池市民広場ファンクラブでは心掛けた．

成果の一部として，菊池高校生たちが菊池市民広場ファンクラブに入りたいと申し出てくれたり，「キクチノ和」という若者たちが，平成 28 年 3 月 12 日（日）に「キクチノど真ん中百人会議」を実施するなど，少しづつ新しい市民広場活用の姿が見えてきた．

謝辞：本研究には，様々な方々にご協力頂きました．菊池市民広場再整備協議会，菊地市ふるさと創生市民広場再整備市民検討委員会のメンバー，菊池市民，菊池高校吉田真一教諭，生徒諸君，菊池市役所の皆さん，特に菊池市役所企画振興課中嶋大樹氏，そして，ともに運営に携わった熊本大学工学部社会環境工学科地域風土計画研究室の学生諸氏には，たいへんお世話になりました．記して感謝の意を表します．

参考文献

1) 菊池市：菊池市史 下巻，pp. 170-172，1986.
2) 菊池市：菊池市史 下巻，p. 805，1986.
3) 菊池市：菊池市史 下巻，pp. 906-907，1986.
4) 菊池市：菊池市史 下巻，p. 411，1986.
5) 菊池市：菊池市史 下巻，pp. 790-798，1986.
6) 文化庁ＨＰ：
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/keikan/
7) 金田章裕，文化的景観 生活となりわいの物語，日本経済新聞出版社，pp. 33-34，2012. 4.
8) 十代田朗編著，観光まちづくりのマーケティング，pp. 10-11，学芸出版社，2010. 11.

(2016. 4. 21 受付)